アブステナンスを守ることの祝福

「ピュリティ」純潔

CFNJ 聖書学院国際部長　グドール ジェラルド

■2004年に札幌市教育委員会が札幌市内の高校２年生を対象に､｢性意識調査｣を実施しました。その結果セックスをすることが「かまわない」｢どちらかというとかまわない」としたのは、男子の８７％、女子の７６％。これは、全国調査での、男子６５％、女子５８％を上回り、札幌市の「セックス容認率」の高さがわかるものです。これは札幌に置かれている私たちにとっては他人ごとではありません。教会に集う中高生はこのような環境の中に置かれ、日々誘惑にさらされています。ですから各教会で、また各家庭で私たちは若い人たちが清い歩みをすることができるように、励まし、教えていかなければなりません。

つい先日の日曜日に私たちの教会で、「結婚までセックスを控える」ことを誓うしるしとして､｢ピュリティ・リング」を若者に贈呈する式を行いました。これは教会で行うのは初めてのことでしたが、１２歳から２０代までの３０人に贈呈されました。３０人の若者が心と声を合わせて純潔の誓いをし、見守る大人たちもまた、主の御前で自分をきよく保つことを誓う姿は、とても美しいものでした。ピュリティ･リングを受け取った若者たちの顔は喜びで輝いていました。嬉しくて涙を流す女性もいました。もちろん、ただ指輪を渡せばいいということではありません。結婚までセックスを控えることの意味を若者に教えていかなければなりません。それを共に学びましょう。

アブステナンスを守ることの祝福

■アブステナンスとは、直接的には、「結婚までセックスを控える」ことを意味する言葉ですが、今では「聖書が教える性倫理」を意味する世界共通語となっています。アブステナンスは聖書の教えであり､個人にとっても社会にとっても霊的、精神的、肉体的な健康につながります。アブステナンスを守る事こそが真の自由と深い喜びを得る秘訣です。その具体的な祝福とはなんでしょうか。

1. 聖書の教えに従う事により，神様を喜ばせる

（1コリント6：18－20）

■この世の考え方に影響を受けて次のような事を言う若いクリスチャンがいます。「聖書の中には結婚前にセックスをしてはいけないとはどこにも書かれていません。愛し合っていればいいんじゃないですか？」と。しかし聖書にはハッキリと､｢不品行を避けなさい」（１８節）とあります。「不品行」とは、ギリシャ語のポルネイアまたはポルノスから来ており、一般にあらゆる形の正しくない性的関係に身をゆだねることを指します。結婚前のセックスは不品行であり、私たちが避けなければならないものです。さらに､｢あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい」（２０節）とあります。性的誘惑に打ち勝つ一つの秘訣があります。それは､｢悪いことをやめよう。やめよう。」と努めるよりは、私たちを愛し、私たちのためにご自身の尊い命をささげるほどに愛してくださった方に注目することです。この方の自分に対する愛を深く知ることです。主の愛がわからないのならば、真剣に主の愛の啓示を求めることです。主は必ずご自分の愛を示してくださいます。そしてこの方の愛に応えて生きようとすることです。私たちが不品行を避けて、清い歩みをすることは神様を大いに喜ばせるのです。

2. 自分の体に対しての罪悪感で悩まない

「人が犯す罪はすべて､からだの外のものです。しかし、不品行を行なう者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。」（１コリント６：１８）とあります。

■男女が性関係を持つと､それだけで特別な関係になったような感じがします。婚前性交渉をした後も、しばらくは肉体的にだけでなく、感情的にもいい気持ちでいるかもしれません。しかし必ずその後に悪い感情が入り込んできます。ある人は恥を感じます。セックスを愛の表現と感じている人は相手から愛を返してもらわなかったら、怒りや拒絶を感じ、復讐心さえ起きてきます。婚前性交渉は必ず罪責感を起こします。なぜなら私たちは神様の意図に違反したら罪責を感じるように造られているからです。ヘブル１３：４には「 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです。」とあります。人は神様の原則を認めようと認めまいと、それを破る時罪責を感じるのです。しかも、セックスをするということは、人間の永遠性、霊性に深く関わっていることです。性交は単なる肉体関係ではなく、いのちといのちの霊的な交わりです。夫婦が一心同体となるこの体験を聖書は「奥義」（エペソ　5:31,32）とさえ呼んでいます。ですから結婚していない者同士が性交をすると、この祝福された体験を誤用、乱用していることになります。アブステナンスを守ることによって、罪責感から守られるのです。

3. 性感染症の心配がない

■北海道の１０代の性感染症罹患率は全国の約２倍あり、都道府県別順位ではなんと１位です。風俗営業の女性の高い割合が性病を持っていますが、それが高校生にも拡がっているのです。

北海道ではＨＩＶの検査数も少なく、自分の感染を知らずにいる人が多いと推測されています。世の中では、「セーフセックス」と銘打ってコンドームを使うことを盛んに宣伝していますが、HIV ウィルスはコンドームの繊維よりも小さいのです。つまりコンドームを使ってもHIVウィルスは伝染するのです。コンドームを使っているからと言って「セーフ」とは言えないのです。唯一の「セーフセックス」とは、聖書が教える通りアブステナンスを守り、結婚した後も一夫一婦制の原則を守る夫婦の間でしか存在しないのです。

アメリカでは、「コンドーム等の避妊用具を使って安全なセックスをしましょう」という性教育をここ２～３０年間行ってきましたが、その結果１０代の性行為と妊娠が４００％も増えました。ウガンダではＨＩＶ感染が猛威をふるっていたのですが、アブステナンス教育を導入することによって、１９９１年から２００１年にかけて、新たなＨＩＶ感染者が７０％も減るという劇的な効果をあげています。ウガンダ・エイズ委員会の勧めには、コンドーム使用が盛り込まれていません。アブステナンスを守るならば、性感染症に関して一切心配することがなく、真の自由を味わい、若い命を尊いことのために用いることができます。

4. 結婚相手にきよい体をプレゼントできる

■ピュリティ･リングの誓いでは､このように言います。「本当の愛は待つということを信じ、私は、神様に対して、自分に対して、家族に対して、私の将来の結婚相手に対して、そして私の将来の子供に対して、この日から、聖書に基づいた結婚をする日まで純潔を守り、また、生きている限り清く歩むことを誓います。」 結婚の日に生涯の愛を誓う結婚相手に､｢私はあなたのために体をきよく守りました」と言って結婚できることは何と幸いなことでしょう。結婚式で花嫁が着る真っ白なウェディングドレスは、清さの象徴です。その意味が失われないためにもアブステナンスは守る価値があります。ぜひこれを若い人たちに教えていきたいですね。■

※ピュリティ・リング贈呈式やアブステナンス教育についてのお問い合わせは、学院事務局まで。■